

大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会

女性医師が生き生きと働き続けるために

—東京医科大学の取り組みについて—



東京医科大学
医師・学生・研究者支援センター／皮膚科
大久保 ゆかり

日時：平成26年9月26日（金）
午後2時～午後4時
場所：日本医師会館大講堂

東京医科大学病院の医師数と女性割合

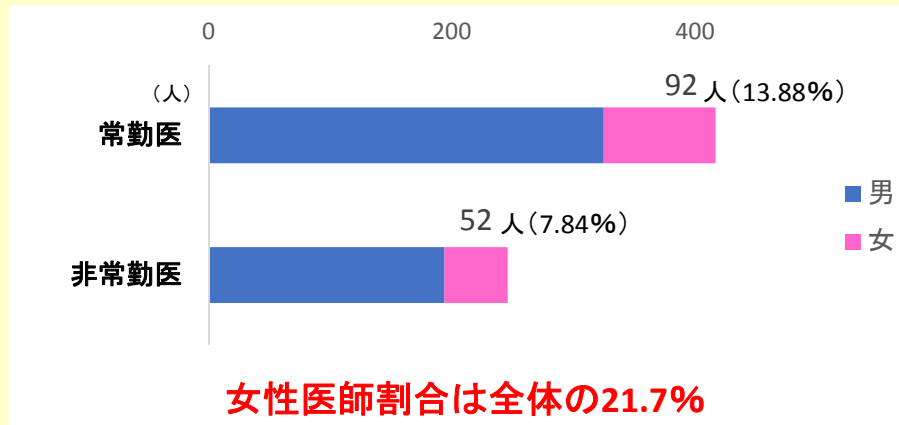
東京医科大学病院の常勤教員数

(人)

	女性	男性
教授	1(0.24%)	51
准教授	2(0.48%)	40
講師	7(1.68%)	70
助教	80(19.2%)	164
助手	2(0.48%)	0
合計	92(22.1%)	325

(平成26年5月1日現在)

東京医科大学病院の教員数



(平成26年5月1日現在)

東京医科大学病院の概要

病床数 1,015床

教職員数 (平成26年1月1日現在)

医師(研修医除く) 599人

研修医 64人

看護師(准看護師含む) 973人

看護助手 95人

医療技術員 305人

事務職員 363人

その他 23人

合計2,422人

(全職種非常勤職員を除く)

東京医科大学病院 ワークライフバランス アンケート集計結果より

結婚・出産後の勤務
条件が合えば継続
して働きたい
9割

現在の仕事を続けて
いく上で支障と思われる点
出産・育児

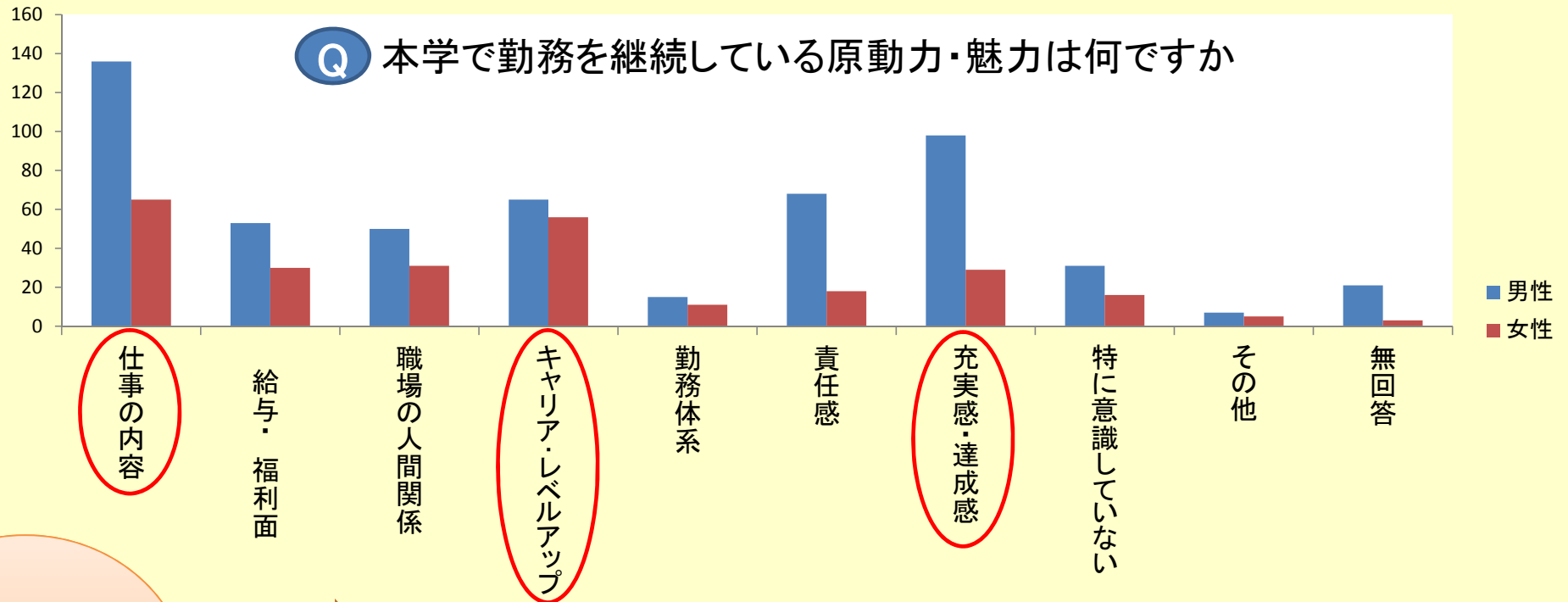
子育てしながら働く
ために必要なこと
職場の雰囲気
配偶者の理解・援助
院内保育園の整備

子育てしながら働くことで
職場に必要な援助
職場の協力
休暇が取りやすい環境
勤務時間や当直の配慮

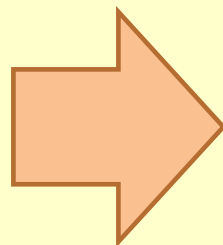
本学において
女性が育児等と両立させて
就業を継続するために
必要とされること
勤務時間の短縮や
勤務時間の弾力化など
労働時間の配慮

平成18年
女性医師の働く環境アンケート
平成22年
第1回女性のワークライフバランスアンケート
平成23年
第2回ワークライフバランスアンケート

東京医科大学病院 ワークライフバランス アンケート集計結果より



仕事の内容
キャリアアップ
充実感・達成感



家庭生活と仕事を両立できる勤務体制や職場環境の整備が必要だと分かった

平成23年、第2回ワークライフバランスアンケート

東京医科大学 医師・学生・研究者支援センター — 就業継続・復職支援 —

平成22年4月1日設立

～ワーク・ライフ・バランスを目指して～

広く社会に貢献する医師・学生・研究者のキャリア・アップの支援、育成ならびに職場環境の整備などを目的としています。

男女を問わず4キャンパス(大学、大学病院、茨城、八王子)を含めた支援を行います。

ワーキンググループ

◆相談窓口

◆就業継続・復職支援

◆育児支援

◆学生・研修医支援

◆調査・広報

◆研究者支援

“大学及び病院に携わる人々を
温かい愛情と大きな手で支える”
という気持ちを込めて作成



支援センター4年間の実績(平成22～25年度)

1. 復職・就業支援

相談件数：54件（女性：45件、男性：9件）

復職・キャリア支援プログラム受講者数：34名（うち修了者5名）（女性：30名、男性：4名）

復職・就業決定者数：5名（全て女性）

決定者の行き先：放射線科、衛生行政機関、麻酔科、皮膚科、総合診療科

2. 勤務体制の整備

短時間勤務利用者総数：平成23年度：16名（全て女性）

平成24年度：30名（女性29名、男性1名）

平成25年度：32名（女性30名、男性2名）

3. 保育施設の整備

院内保育園：定員9名

定員拡大のため院外託児施設と契約：定員8名

} **定員合計**
17名

育児支援

<大学病院の保育概要>

東京医科大学病院に勤務する職員等(学生含む)の子供が対象

・院内保育園



定員9名

保育対象: 生後9週目～3歳未満

開園時間: 平日7:30～19:30

第1・3・5土曜7:30～17:30

・リトルメイト(京王プラザホテル内 契約) 定員8名

保育対象: 産休明け2ヶ月以上～未就学児

開園時間: 通年 8:00～20:00



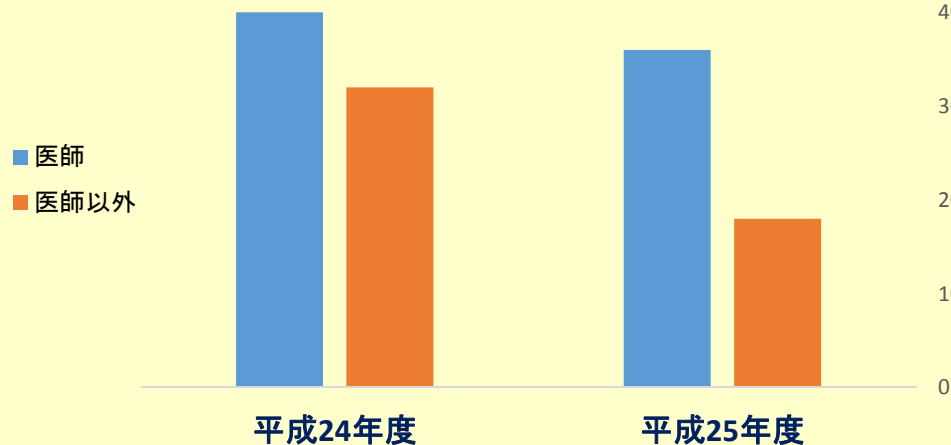
➡ 新病院における院内保育施設基本計画案の提出
規模の拡大、病児保育、24時間保育の実施へ

東京医科大学病院の育児制度・保育施設 利用者推移

東京医科大学病院全職員の育児休業取得数

(人)

	女性	男性
平成23年度	81	0
平成24年度	102	1 (医師以外)
平成25年度	113	1 (医師以外)



東京医科大学病院 院内保育園 登録のべ人数

	医師	医師以外
平成24年度	40	32
平成25年度	36	18

院内保育園の利用者は
医師以外より医師の方が多い

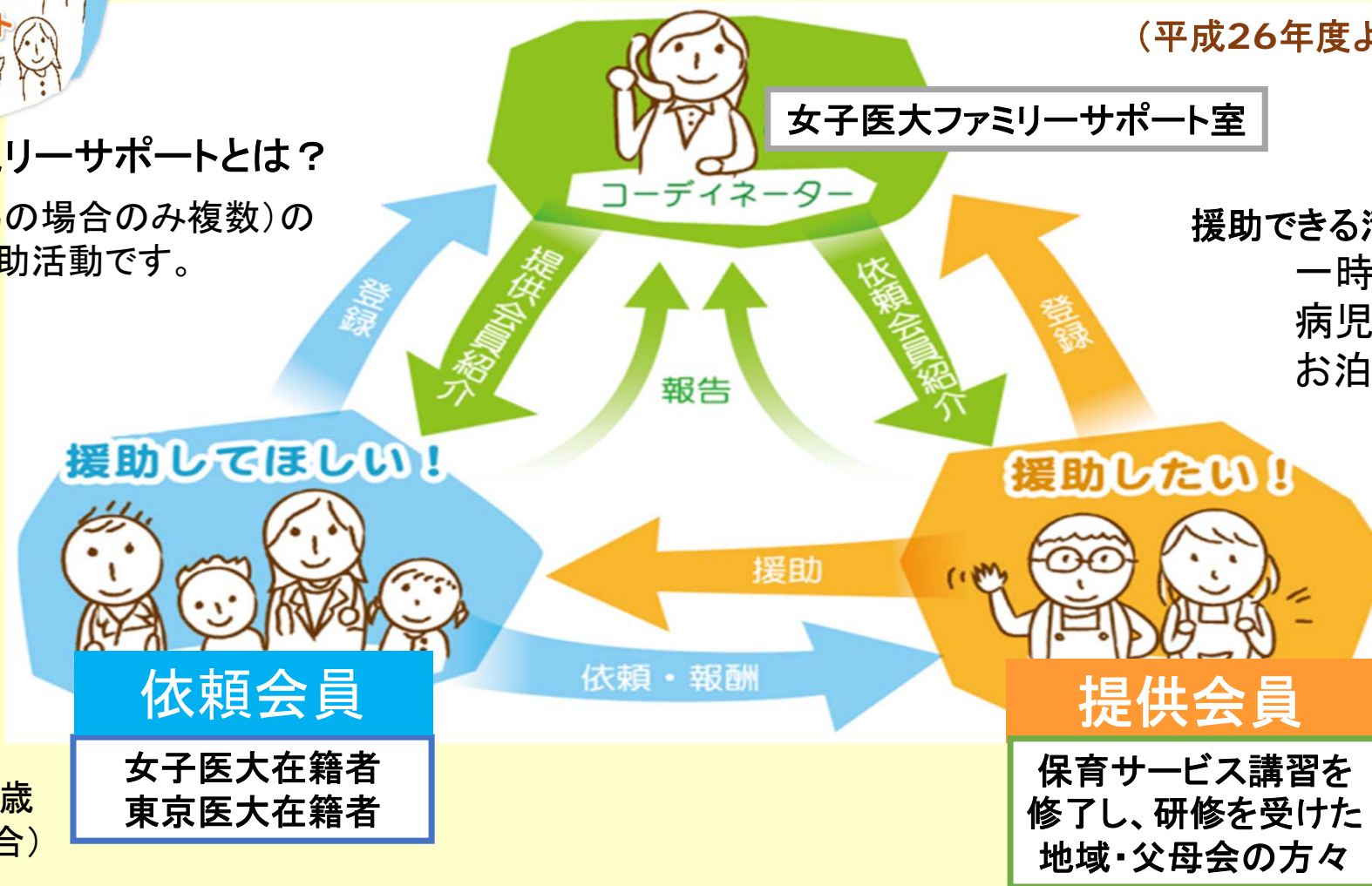


東京医大女性研究者支援事業 女子医大ファミリーサポート連携プログラム

(平成26年度より開始)

女子医大ファミリーサポートとは？

個別対応(兄弟の場合のみ複数)の
相互援助活動です。



援助できる活動
一時預かり保育
病児・病後児保育
お泊まり保育

援助してほしい!



依頼会員

女子医大在籍者
東京医大在籍者

援助したい!



提供会員

保育サービス講習を
修了し、研修を受けた
地域・父母会の方々

対象年齢
生後2ヶ月～15歳
(一時預かりの場合)

東京医科大学の出産・育児に関する休暇と短時間勤務

	男性	女性	6週前	入院	出産予定日	出産日	退院	1ヶ月以内	8週間後	1年後	3年後	小学校就学	小学校3年
産前休暇			6週間前 (多胎の場合14週間)										
出産休暇						期間中7日以内 (男性職員の特別休暇)							
産後休暇						8週間							
育児時間						1日1時間(30分単位で2回まで)							
育児休業						1歳まで(父母ともに取得の場合は2ヶ月延長)							
育児中の短時間勤務									3歳未満 (1日の勤務を6時間)				
短時間正規雇用 (病院助教へ身分変更) ※原則アルバイト可									1週7時間勤務				
											1週 14時間勤務		
医師の育児短時間勤務 (身分変更なし) ※原則アルバイト不可 (臨床研究医・後期研修医除く)									1週7時間勤務				
											1週 14時間勤務		
子の看護休暇						就学前の子を療育する職員 年5日以内							

就業継続・復職支援

・常勤の臨床研究医の処遇改善

臨床助教 : 臨床経験8年目以上の専門医・指導医で、助教になれない医師のため

・医師短時間勤務制度 (小学校3年生までの子を養育する 他)

医師の離職防止のための短時間勤務 : 育児のために限る

※常勤で復職することを原則とする。

病院助教 : 様々な理由での短時間勤務が可能
任期1年(再任2回まで、最長3年)
(育児、介護、研究など)

研究助教 : 基礎・社会医学・看護系の教員対象
任期1年(再任不可)
(育児、介護、研究など)



キャリア・復職支援ベーシックプログラム



医師がキャリアアップ、復帰するための道筋を検討し、そのステップとしてスキルアップができるプログラムを作成



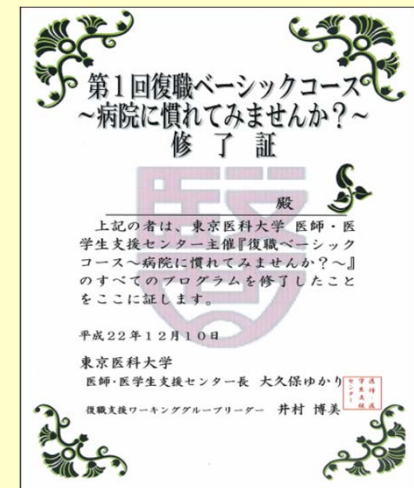
前半の1週間は座学での講義、後半の1週間は見学実習を行う。

＜平成22年度～平成26年度＞全6回開催

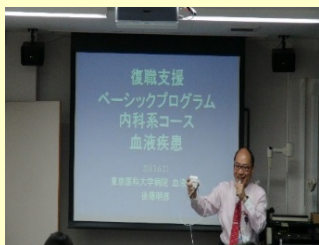
受講者人数 合計 44名

うち女性39名、男性5名

学内13名、学外31名



第6回 復職ベーシックプログラム ～病院に慣れてみませんか？～



開催日程：平成26年6月16日～6月27日



日付	1時限 09:00 - 10:00	2時限 10:30 - 11:30	3時限 13:00 - 14:00	4時限 14:30 - 15:30
6月16日(月)	整形外科	「産業医について」 ／「精神科領域」	医療安全管理学	渡航者医療センター
6月17日(火)	皮膚科	腎臓内科	小児科	感染症科
6月18日(水)	糖尿病・代謝・内分泌内科	総合診療科	内視鏡センター	呼吸器内科
6月19日(木)	高齢診療科	産科・婦人科	クリニカル・シミュレーション・ラボ研修 シミュレーションセンター	
6月20日(金)	循環器内科	健康予防医学センター	OSCE (客観的臨床能力評価試験)	
6月23日(月)～6月26日(木)	復職支援のための外来・病棟見学実習			
6月27日(金)	修了試験	修了証書授与 復職相談会 (希望者のみ)		

受講者からのアンケート

【講義について】

・とても丁寧に教えて頂き、分かり易かったです。卒後時間が経ち、又、休職しているため、変更になったことなど教えて頂いたことが良かったです。

【実習について】

・針刺し事故を避けるべく、針が進歩しても使えなければ意味がないし、意識することの大事さを翌週の見学で改めて感じました。

【全体を通して】

- ・講義も大変勉強になり、今後の復職に向けて頑張る勇気をこの2週間でいただきました。
- ・学外の卒業生も講義を受けさせて頂きありがとうございました。
- ・様々な人に出会えたことが一番の収穫と思いました。姿勢・情報・考え方、参考にさせていただきます。

講師・指導医からのアンケート

【受講者について気付いた点】

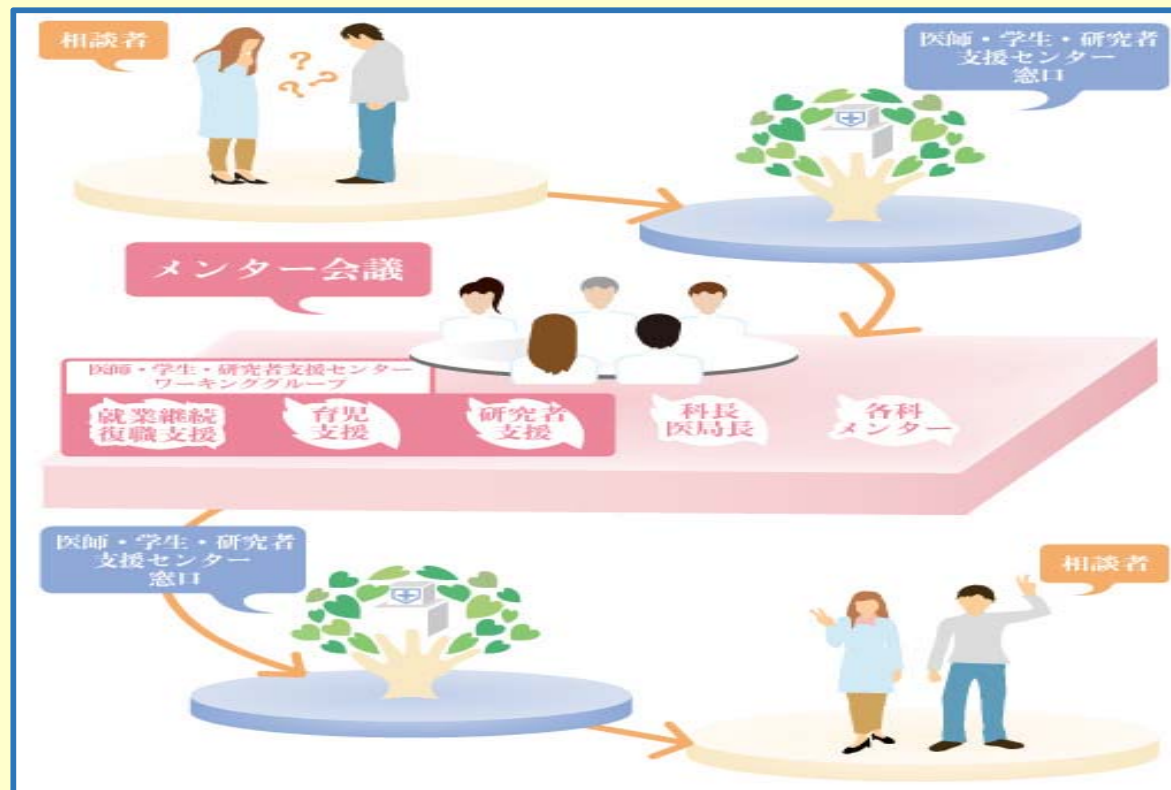
受講者は皆積極的で一生懸命であったため、私たちも楽しく指導することができた。学習意欲がとても高いと感じました。

【ご意見】

とても良いプログラムだと思います。広く学外にアピールして東京医大のマンパワーアップにつながることを期待します。他学の方も受講できるのはとても良いと思います。

相談窓口

就業継続や復職後のキャリアコーディネート窓口を設置している。
メンターを設置し、当センターWG(ワーキンググループ)と連携をとって相談を受ける。

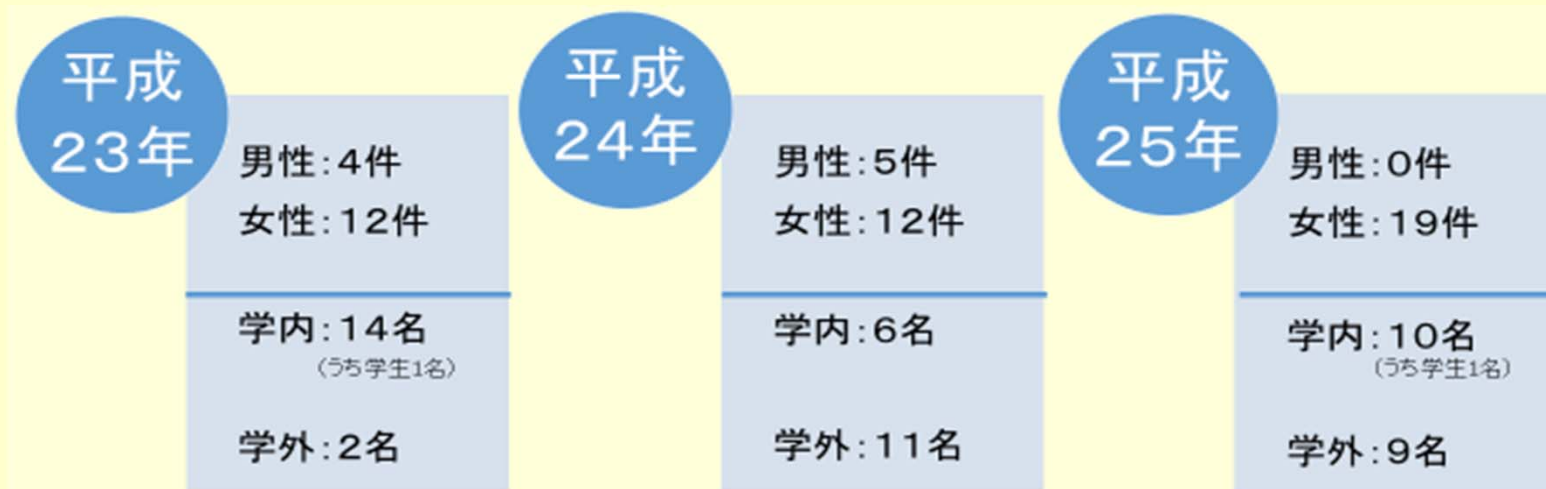


支援センターのメンターシステムにおける相談の流れ

相談内容

- 子どもが小さく、夜間当直が難しい。・・・育児・就労形態
- 産休明けの職場復帰(働き方)について相談したい。・・・育児・就労形態
- 育児のため休職中だが復帰したい。保育園が見つからない。・・・育児
- 専門医を取得したい。・・・キャリア
- 開業にあたり、他科の勉強をしたい。・・・キャリア
- 親の介護のため働き方について相談したい。・・・介護・就労形態

相談窓口の相談件数



年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計 (重複有)
相談件数	2	16	17	19	54
育児	0	6	4	4	26
キャリア	2	2	10	9	13
就労形態	0	8	2	4	11
その他	0	1	2	4	6

※その他…病気など

学生・研修医支援

・医学生に対する支援

1年生 「症候学入門」： センター紹介、医師の将来像

3年生 「キャリア教育」

5年生 「BSLシンポジウム」： 院内・院外の医師による
ロールモデルを紹介、意見交換

・初期臨床研修医に対する支援

「ランチオンセミナー」 ～先輩と語ろう～ 医師の働き方

年に1回女性医師が仕事と育児の両立や時短勤務の有効的な利用など体験談を講演。

支援センターのミーティングに、研修医(2年次1名)が参加し、意見を聞いています。



調査・広報



1. ホームページの作成および更新

<http://www.tmu-shien.com/>

Facebookページ開設

2. ニュースレターの発行

3カ月毎にお知らせや活動報告を掲載。

全国の医学部設置大学や同窓生に配布。

3. ワークライフバランス推進講演会開催(育児・介護など)

4. 職員のワークライフバランスアンケート実施

院内保育園や勤務制度の要望多数。

5. パンフレットの企画・作成



対象 全職員 ★★★	病院長 安全管理室長 卒後臨床研修科長	行田 哲男 相馬 孝博 坪井 良治
-------------------------	---------------------------	-------------------------

東京医科大学病院 院内研修会

日時:平成24年2月28日(火) 17:30 ~ 18:30
場所:東京医科大学病院 6階 臨床講堂
※茨城・八王子はTV中継を行います

司 会:生涯教育センター 女性支援グループ サブリーダー
看護部長 佐藤 博美

開会挨拶:生涯教育センター 女性支援グループ リーダー
医師・医学生支援センター センター長
皮膚科 進教授 大久保 ゆかり

第1部:ワークライフバランスについて
—私の経験、看護管理者として、病院スタッフの現状から—
演 者:東京大学医学部附属病院 看護部長 佐藤 博子 氏

第2部:構成員の多様性向上のために—大学がなすべきこと—
演 者:東京大学男女共同参画室
男女共同参画推進フェリエクター 三浦 有紀子 氏

閉会挨拶:東京医科大学 学長 臼井 正彦
共催:生涯教育センター 女性支援グループ
医師・医学生支援センター
卒後臨床研修センター
東京医歯

★東京都医師会の方は、日本医師会生涯教育制度「日医生涯教育講座」の単位が取得できます。
開催地:1号館 2F 会議室(110)
平成22年4月より単位制度が変更されました。詳しくは日本医師会生涯教育 on-line
<http://www.med.or.jp/med/about/kyotaku.html>をご覧ください。

研究者支援

文部科学省 平成25年度科学技術人材育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」採択

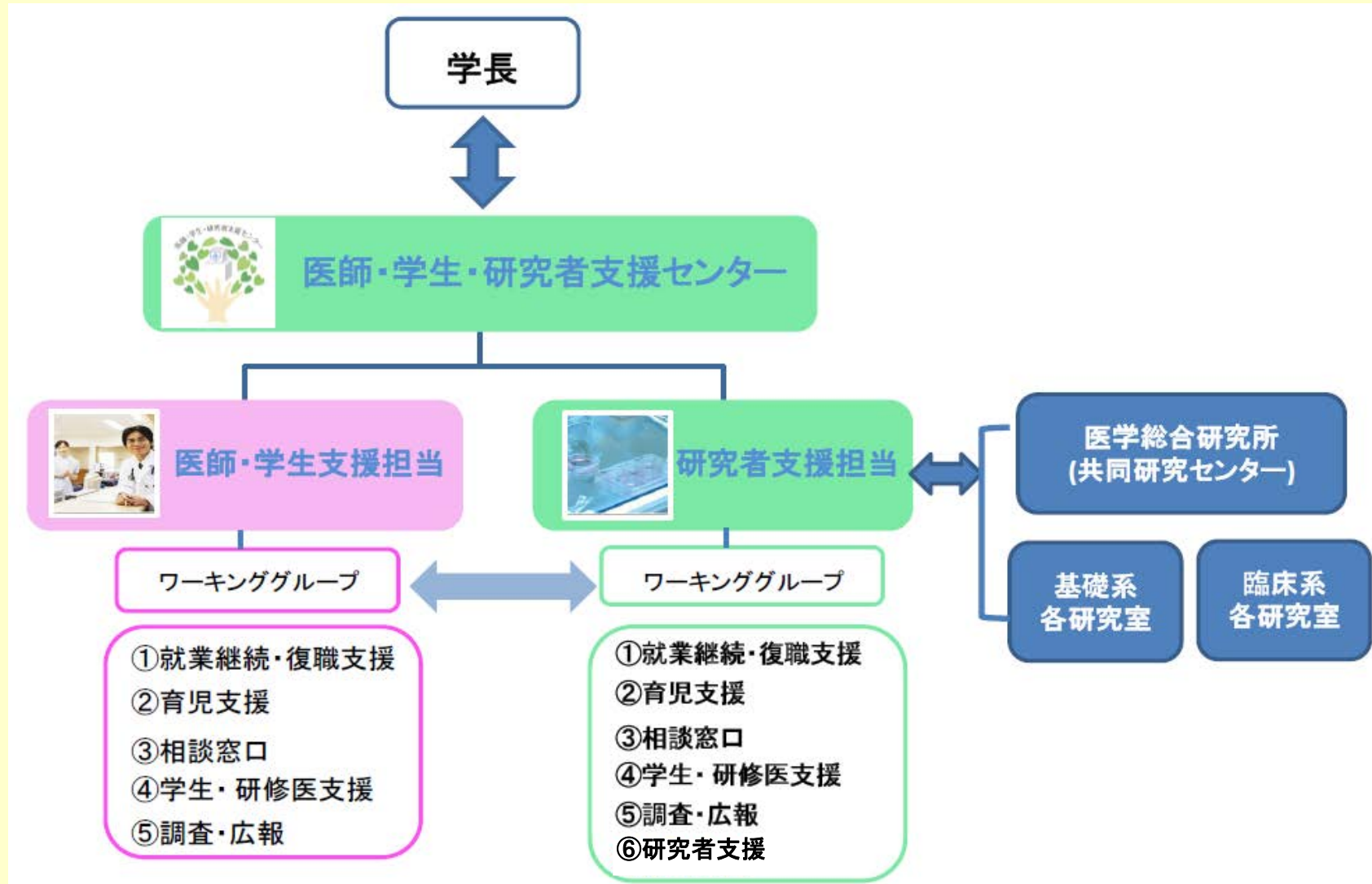


女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、
“ライフイベント”と“研究”を両立するための環境整備を行う。

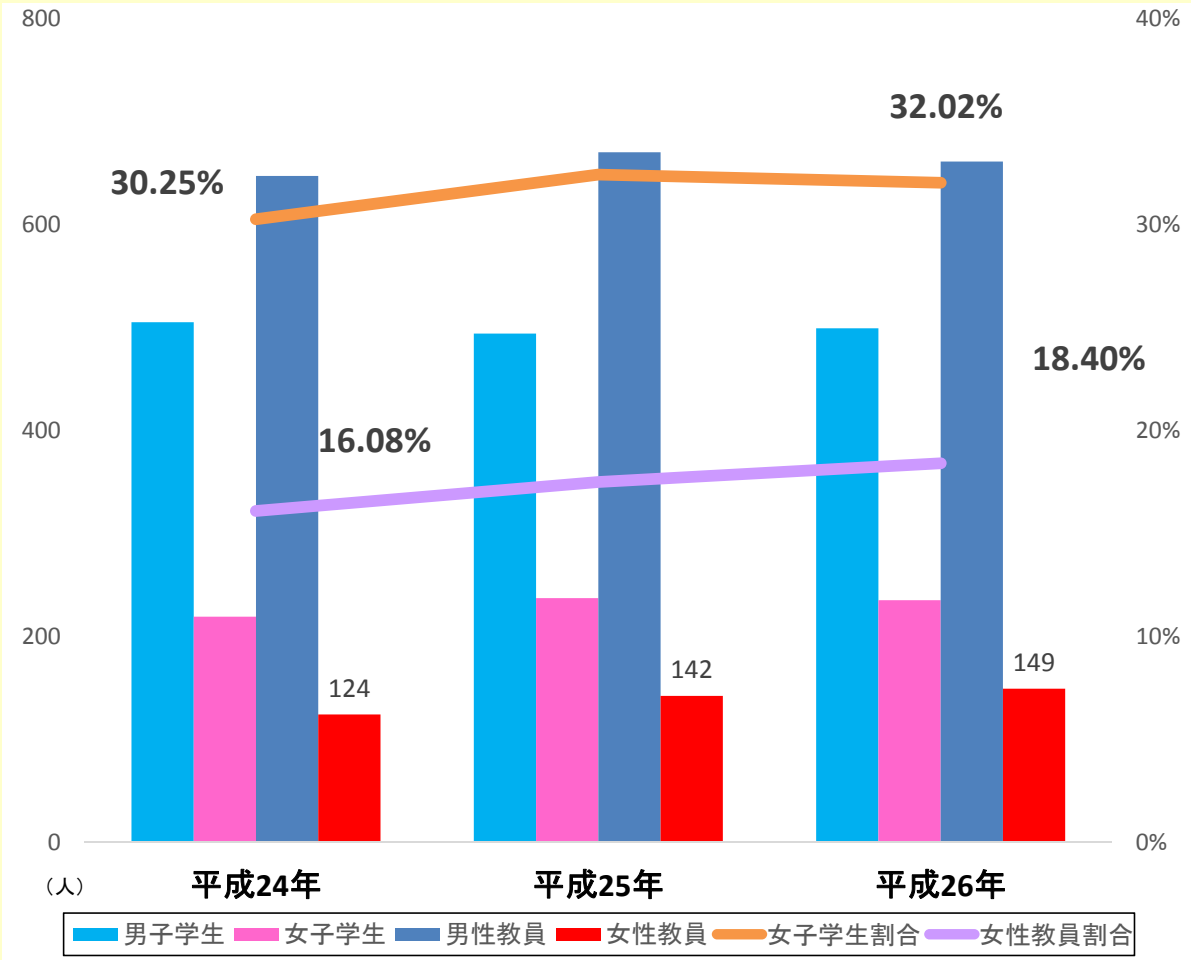
- * 研究補助者の配置
- * 上位職の女性研究者を増やす取り組み
- * 科研費フォローアップ助成金の女性枠設置
- * 研修会や講演会の開催(科研費獲得のためのセミナーなど)
- * 研究者のニーズ調査



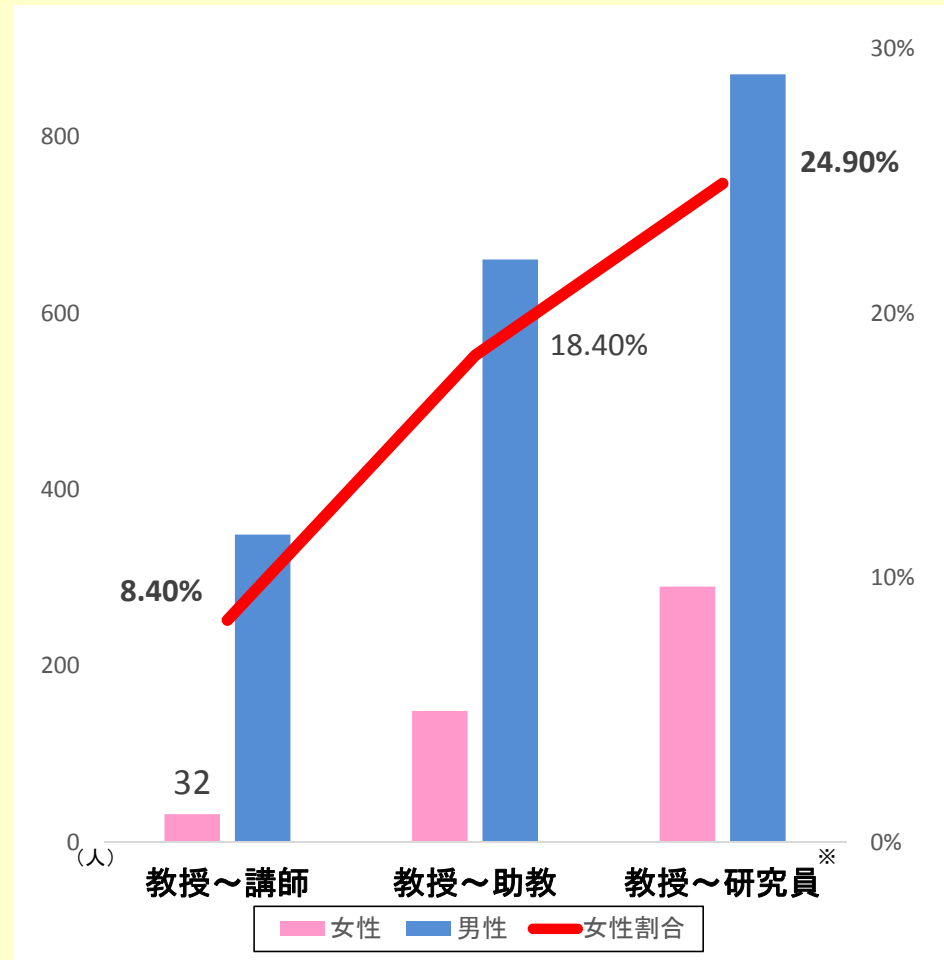
東京医科大学 医師・学生・研究者支援センター (平成26年9月現在)



東京医科大学の教員・学生に占める女性割合（医学科のみ）



(各年5月1日現在)



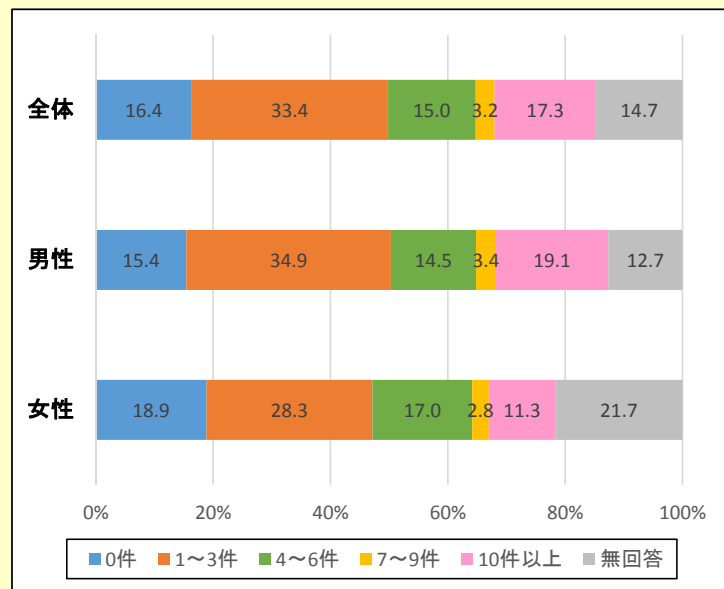
(平成26年5月1日現在)

※研究員・・・臨床研究医、後期臨床研修医、臨床研修医

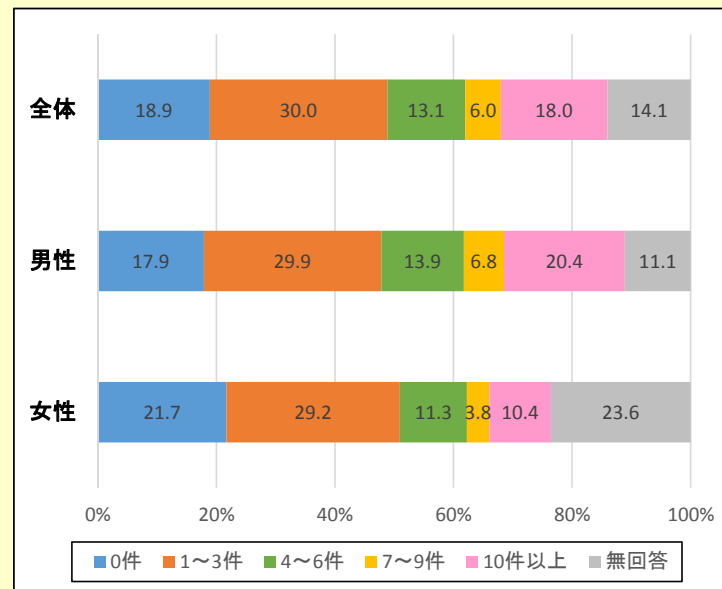
研究者とワークライフバランスに関するアンケート

Q 直近の3年間(平成23~25年度)で携わった研究について、件数を教えてください。
(研究には、症例報告、疫学研究、臨床研究、実験研究、治験などを含みます。)

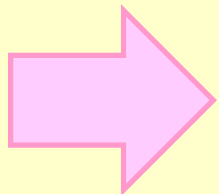
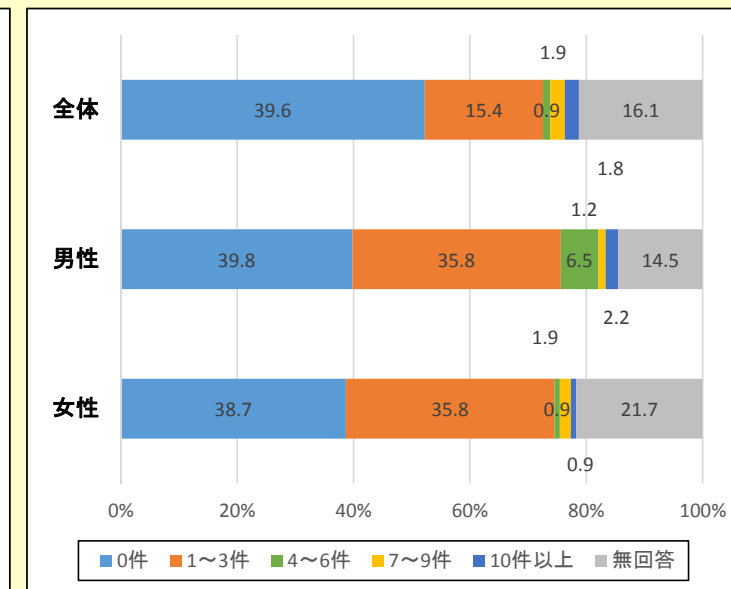
1. 携わった研究 ... 件



2. 論文執筆数 ... 件



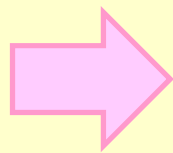
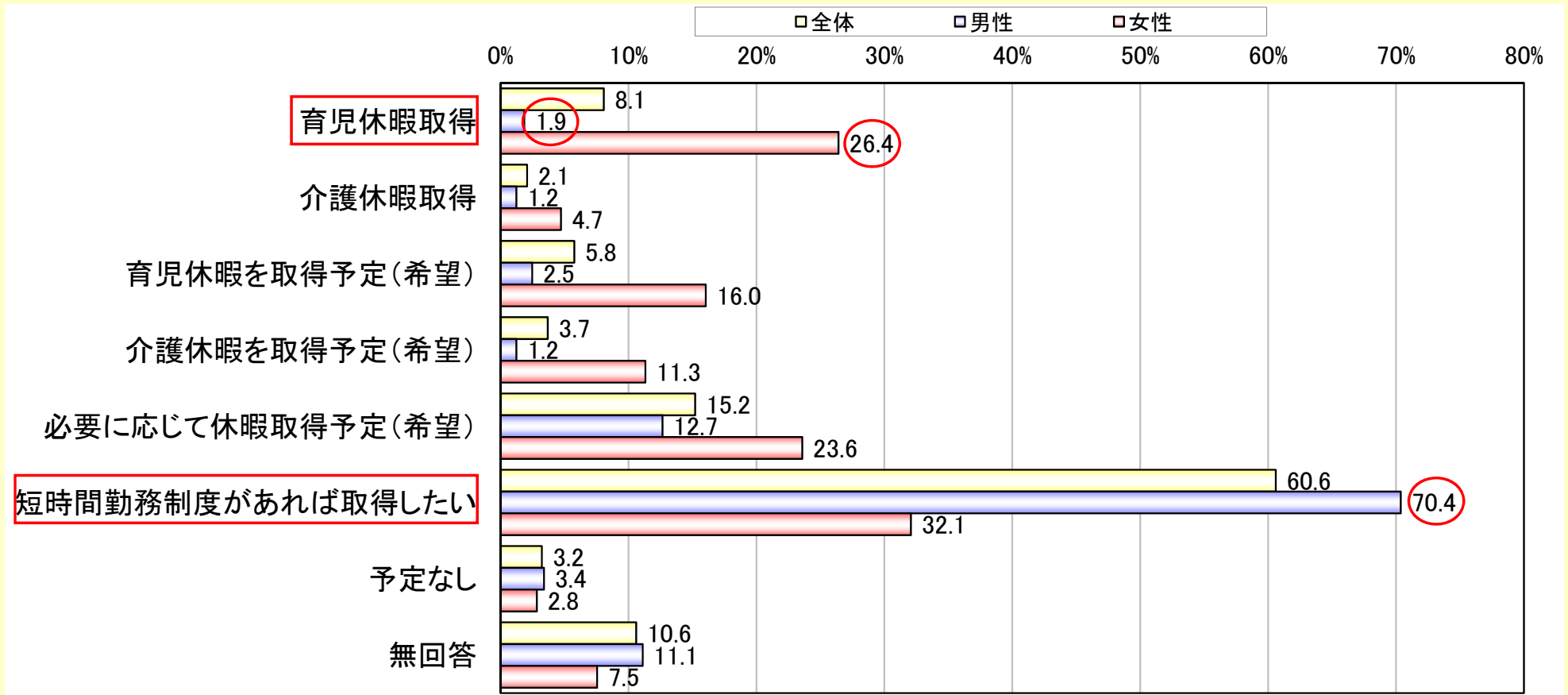
3. 科学研究費(文部科学省および厚生労働省)の申請 ... 件



女性の方が業績はやや少ないが、
大きな差は無かった

実施期間:平成26年2月14日(配布)~平成26年3月3日(回収締切)
対象:本学の教育職員[助教以上の教員
(臨床助教・病院助教・兼任助教含む)]
配布:1,094名 回収434名(回収率39.67%)

Q 育児休暇や介護休暇を取得したことがありますか。あるいは取得予定(希望)はありますか。当てはまるものをすべて選択してください。

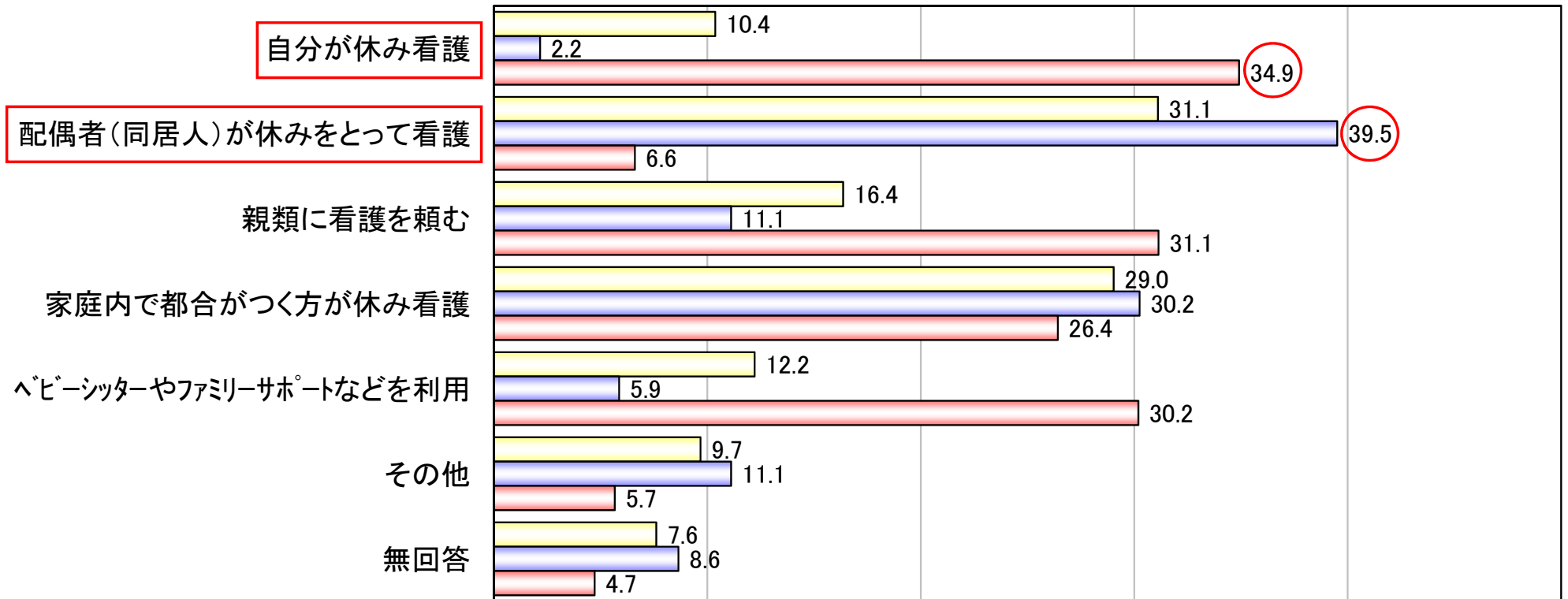


男性の育児休暇取得が少ない・男性も時短制度取得を希望

Q 子どもが病気になった時、どのようにしていますか。
(未婚の方は今後を想定し、既婚の方は現状を元にご回答下さい。)

□全体 □男性 □女性

0% 10% 20% 30% 40% 50%

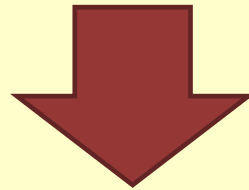


➡ 男性の育児参加の必要性を奨励

女性医師支援の考え方

医師は公的使命を持ち、国民に健康と質の高い医療を提供するために、生涯継続して自己研鑽に励まなければならない責務がある。

一方育児や介護も手を抜くことができない大仕事であり、医師という仕事との両立は困難を伴うが、人間としても医師としても男女とも成長させてくれる。



女性医師は自覚をもち、強い意志を持って仕事を継続する。男性医師は多様性を理解し、社会で子供を育てる、支えるという観点をもつことが、結果的に医師の確保につながる。

ダイバーシティを考えた医師支援

育児・介護・病気により長時間労働ができない、
短時間勤務になったなど男女を問わず様々な医師の
就業継続・復職支援を行うことは、すべての医師の
就労環境の改善とその増加につながる。
重要なことはこれを医師自身、その家族、職場で
共有する価値観とすることである。